

るに、それが自然的に来るならば、社会民衆もあきらめが著しいのである。然し、之が社会組織の上に何等の缺點があつて、貴族さか、富豪さか、中途で買占めでもして居る云ふことが判明すれば、それこそ大暴動になるのである。昨年八月の米騒動は全くこの社会的暴動であつた。農商務大臣は、米は充分あると報告するに、米價は騰貴して行つたのである。そして、甲府の若尾、神戸の鈴木、岡山の澤田等の農家の頭目等は、焼酎の目に遇つたのである。日本に於ける資本主義は漸く、日本の大暴動を起すまでに、勢が過つて来たのである。

(二) 近世資本主義の定義

何故に、暴動には資本主義の経済社会組織が直接に責任があるか。之は世の人が問はんとする所であらう。それで、私は近世資本主義の定義なるものを與へねばならぬ。

歴史經濟學の巨魁ケンボルトは、その資本主義の精髄なる書物の中に、資本主義的生產組織が、十五世紀にフロレンスに源を發して、近世經濟組織を全歐洲へ、暴利の爲めの暴利、大市場の爲めの大市場、生産の爲めの生産に陥つて行く有機を實に面白く書いて居るが、彼によれば近世資本主義の歴史的經過云ふものは、暴利の爲めの暴利、生産の爲めの生産であつて、その他に、人道も、精神も、主義も、血も肉も存在する餘地は少しも無いのである。「暴利の爲めの暴利」、「生産の爲めの生産」何ぞ恐ろしい、社會制度云ふものよ!

フロレンスはその爲めに、國家的海陸路を組織し、葡國も英國も皆、此機構の爲には、基督教が十二世紀に渡つて、聖職苦闘して、解放し得た、奴隷制度を復活させた!

あゝ船長ハウキンスよ、汝の船が第一の奴隷を大陸に運ばなかつたならば、世界は今日の權に噴沸たるものでは無かつたらうに。資本主義の偶像! あゝ、彼はモロックよりも恐ろしく、人間の精神に喰ひ込んで、近世の人類を皆、魂ぬきの犠牲動物にしてつた。

(三) 新教の反抗運動と其遺著